

季刊 旬のブンカが集うコミュニティマガジン ブンカ BUNKA

vol.
96
2025
spring



旬の文化が集うコミュニティマガジン

季刊
ブンカ

BUNKA vol.96 2025.3.15

発行 公益財団法人 福井県文化振興事業団 福井県立音楽堂「ハーモニーホールふくい」
〒918-8152 福井市今市町40-1-1
0776-38-8288 https://www.hhf.jp



(公財)福井県文化振興事業団

「ハーモニーホールふくい」コンサート情報

2025.4 - 2026.3

一般発売日 2月15日(土)

5.24 14:00開演 ～Curtis音楽院で学ぶ2人 夢の共演～ Himari×Karlis DUOコンサート

一般発売日 2月22日(土)

4.22 13:30開演 第34回 ハーモニー プンカさろん ～オランダ黄金時代の絵画 - 光・音楽・フェルメール～
5.2 19:00開演 ガルガンチュア音楽祭 in ふくい 實川 風 ピアノ・リサイタル
6.25 19:00開演 ラハフ・シャニ指揮 ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団 ピアノ:ブルース・リウ

一般発売日 3月8日(土)

6.1 14:00開演 辻井伸行 日本ツアー2025

一般発売日 3月22日(土)

6.8 14:00開演 連弾の妙技 ～The ORGAN～ オルガン:長田真実 & 大平健介
6.14 15:00開演 北欧の夏至祭 ～ヴェスタノーが奏でるスウェーデン伝統音楽の世界～

一般発売日 4月26日(土)

7.6 ①10:00開演 ②12:00開演 ハーモニーびくにつく ～ゆれる・はねる・おどる・ダンス!!!～
7.13 15:00開演 松井秀太郎 DUO <会場:美浜町生涯学習センターなびあす>

一般発売日 5月24日(土)

8.10 19:00開演 若い芽コンサート2025
8.22 19:00開演 越のルビープロジェクト 篠原悠那&坪井大典&徳永雄紀 ピアノ・トリオ ～15年ぶり再結成～

一般発売日 6月21日(土)

9.6 15:00開演 小野リサ ボサノバコンサート「アゲイン(仮題)」
9.24 19:00開演 沖澤のどか指揮 京都市交響楽団 ヴァイオリン:石田泰尚

一般発売日 7月19日(土)

9.9 13:30開演 第35回 ハーモニー プンカさろん ～J.シュトラウスⅡ 生誕200年記念によせて～
10.5 ①11:00開演 ②14:00開演 秋の子ども音楽会「ステージできく」コンサート(仮題)
10.24 19:00開演 クラシック・エンターテインメント! ピアノ・バトル

一般発売日 8月23日(土)

11.9 15:00開演 横山だいすけ My Songs Concert
11.22 大人のためのジャズ・フェスティバル(仮題)
11.29 16:00開演 ケルティック・クリスマス2025 シャロン・シャノン&ステップクルー・トップ4
11.30 14:00開演 バリアフリーコンサート2025 ～冬、そしてクリスマス～

一般発売日 9月13日(土)

11.11 13:30開演 第36回 ハーモニー プンカさろん ～アンデルセンが描いた「雪の女王」～
12.5 19:00開演 越のルビープロジェクトSpecial J.シュトラウスⅡ 生誕200年記念 ～受け継がれしウィーンの心～
12.13 15:00開演 小林愛実 ピアノ・リサイタル

一般発売日 10月25日(土)

1.10 15:00開演 ニューイヤーコンサート2026 ウィーン・リング・アンサンブル
1.18 15:00開演 「ステージできく」プレミアムコンサート 近藤 薫プロデュース リヴァラン弦楽四重奏団 +1(プラス・ワン) 福井公演

一般発売日 11月15日(土)

2.20 ②～23 ④ 4回公演 HARMONY HALL FUKUI presents ミュージカル「雪の女王」

一般発売日 12月20日(土)

3.7 11:00開演 越のルビープロジェクト 美音 ～クラシック de プレーメンの音楽隊♪～
3.15 15:00開演 ミュージック・イン・ザ・ダーク® ～闇に響く音～

整理券配布開始日 2026年1月24日(土)

3.20 ②～22 ④ ハーモニーホールふくい オープンデイズ
3.21 16:00開演 20th Anniversary 福井ジュニア弦楽アンサンブル・セミナー 成果発表会

※各種発売日は右記の通りです。特別協賛会員先行:一般発売の4日前 友の会会員先行:一般発売の3日前 一般発売日:記載日
※原則として、就学前のお子様のご入場はご遠慮いただいております。
※公演情報は2025年3月5日現在のものであり、都合により変更される場合があります。あらかじめご了承ください。



チケットのご予約・お問い合わせ

ハーモニーホールふくいチケットセンター

TEL.0776-38-8282

[10:00～17:00・休館日を除く]

チケットはネットから
365日いつでも
購入できます!



ホームページ
https://www.hhf.jp/

JR・ハピラインをご利用の場合

福井駅から福井鉄道福武線に乗り換え、もしくは福井駅・鯖江駅からタクシーで15分。

お車でお越しの場合

公演当日は、駐車場の混雑が予想され、駐車に時間がかかる場合がございます。
開演後は進行の都合上ご入場をお待ちいただく場合がございます。予めご了承ください。

竹田のしだれ桜(坂井市)



まつり期間中はライトアップされたしだれ桜が幻想的な世界を醸し出す。今年は4/5～18の予定(※お出かけの際は道路情報を要確認)

たけくらべ広場
場所/坂井市丸岡町山竹田94-10
アクセス/北陸自動車道丸岡インターより
車で約20分

※丸岡町方面からの丸岡川西線は
4月末頃まで通行止めの予定です。
ホームページ等で確認してから
お出かけください。



住民の熱意が生み出した
山あいの静かな桜の里

山々に囲まれた丸岡町竹田地区。春になるとあちらこちらで、しだれ桜の花が咲き誇ります。「たけくらべ広場」に60本のベニヤエシダレザクラが植えられたのは平成元年。今では約150本に増え、県外客も多数訪れる花見の名所となりました。

さらに公園整備をきっかけに、住民の間で、「地区を『千本しだれ桜の里』に」という動きが生まれました。現在、道路沿いや民家の庭などにある木は、寄付された苗を住民が植樹したり、個人で購入して植えたりしたもの。今春の植樹で約700本と、目標に着実に近づいています。

折れた木の手入れなど、管理も全て住民の手で。ライトアップは1本の木から始め、試行錯誤しながら広げてきました。今年で16回目を迎える「竹田の里しだれ桜まつり」は、ショーも音楽もなく、地元産品が並ぶだけの静かなまつり。そこには「自慢の自然を五感で感じてほしい」という、住民たちの誇りに満ちた願いが込められています。

※表紙の写真は、魚眼レンズを付けたカメラで4方向360度撮影したものをパノラマ合成したものです。

CONTENTS

- 1 今号の表紙
- 2 Essay 敦賀と昆布。おぼろ昆布製造技術の無形民俗文化財登録に寄せて 文 朝倉由希氏
- 3 特別寄稿 県民アートプロジェクトの時代 クリエイティブ・ディレクター、福井県文化振興事業団副理事長 加藤種男氏
- 5 Interview オルガニスト夫妻が魅せる 新しいオルガン音楽の世界 オルガニスト 長田真実氏 オルガニスト 大平健介氏
- 7 Piano Stars きっと、あなたも虜になる 新時代の「ピアノ・スター」たち / ブルース・リウ インタビュー
- 9 「ハーモニーホールふくい」自主公演情報
- 11 越のルビーアーティスト 今川裕代氏 (ピアニスト)
- 12 私の好きなハーモニーホールふくい 広崎うらん氏 (演出・振付家) / カーテンコール
- 13 アートシーン (キーパーソン) 一般社団法人うみのいえ 代表理事 米村智裕さん
- 14 第26回 野の花文化賞 《受賞に寄せて》
- 17 2025年 4～6月開催「ハーモニーホールふくい」コンサート情報
- 18 Information

Essay

敦賀と昆布。おぼろ昆布製造技術の
無形民俗文化財登録に寄せて

文 朝倉由希



あさくら ゆき ●福井市生まれ・在住。
京都大学文学部卒業。東京藝術大学大学院音楽研究科応用音楽学博士後期課程修了。博士(学術)。アートマネジメント、文化政策を専門とする。2017年度から文化庁地域文化創生本部研究官。2021年4月から公立小松大学国際文化交流学部准教授。福井県芸術文化アドバイザー。共著に「文化で地域をデザインする—社会の課題と文化をつなぐ現場から」(学芸出版社、2020)など。

昆布の用途は幅広い。昆布巻、おでんなど、昆布そのものを食すのがひとつ。加工品の種類も多く、つくだ煮、塩昆布、とろろ昆布など、ご飯のおともやおやつ、おつまみとしても楽しめる。さらには、出汁を取り、様々な料理のベースとしても用いられる。いろんな食材のおいしさを引き出し、和食の味を支える存在である。冬は手軽であたたまる鍋料理の頻度が高く、昆布が大活躍する。出汁のうまみが具材と調和して体にしみわたり、幸せとはこのようなシンプルなお料理にあるのだと実感させられる。

さて、昆布の産地といえば日高、利尻など北海道。国内産のうち9割以上が北海道産であるが、富山や福井での消費量が多く、敦賀では伝統的に昆布の加工産業がさかんである。そこには北前船が大きく関係している。

昆布が食用としてより一般に普及したのは江戸時代のこと。北前船が北海道と大阪間の海上を往来し、各



敦賀のおぼろ昆布製造技術(株式会社奥井海生堂提供)

地の産物を運びながら経済を動かしていた時代、北海道からは昆布やニンジンなどが各寄港地に運ばれた。北海道の松前藩が扱うニンジンや昆布などの特産品は「松前物」と呼ばれ、近江商人が支配していた。彼らは敦賀で荷揚げし、琵琶湖を経由し近江に運んで、消費地である近畿で売りさばいた。敦賀の人々は、松前物の荷の扱いや運搬にかかわるようになっていった。昆布の加工業もこのような中で盛んになっていった。

敦賀は日本海に面するとともに琵琶湖の真北に位置し、重要な陸路と海路が交わる要地であった。このことが、産地でないにもかかわらず昆布との縁を深めることになったのである。

今年1月、敦賀のおぼろ昆布製造技術が国の登録無形民俗文化財に登録されることが決まった。おぼろ昆布はひらひらと薄い帯状の昆布で、おにぎりに巻いたり汁物に入れたりして使われる。函館沿岸で採れる真昆布を原料に、酢に漬けてやわらかくなった昆布を薄く削って作る。機

械化は難しく、刃先を曲げた専用の包丁を用いて職人が手作業で一枚一枚削りだす。古くから物流の拠点であり北前船の荷揚げの中継地であったという歴史的背景を反映するとともに、手すきの伝統的な技術が今日まで継承されてきた。その地域的特色が無形民俗文化財として評価されたポイントである。

一方で、昆布をとりまく環境は厳しい。気候変動により昆布の生産量は減少している。食生活の変化による需要の減少、担い手不足も課題である。自然の恵みがもたらす多様な食材、その持ち味を尊重した調理や保存の工夫、栄養バランス、年中行事との密接な関わり……。2013年ユネスコ無形文化遺産に登録されたこれら和食の特徴は、まさに昆布が持つ要素といえる。あらためて、昆布の流通や加工の歴史、各地の食文化にもたらした影響、自然の恵みのありがたさに思いをはせながら、和食の核ともいえる昆布を味わう機会を増やしていきたいものである。

特別寄稿

県民アートプロジェクトの時代



加藤種男氏

かとう・たねお ●クリエイティブ・ディレクター。福井県文化振興事業団副理事長。アサヒビールで企業メセナを担当し、企業メセナ協議会専務理事など歴任。全国各地のアートプロジェクトや地域創造に関わる。アーツカウンシルしずおかアーツカウンシル長。著書に「祝芸術祭」「芸術文化の投資効果」など。

福井の未来文化を考えるために、あえて昔ばなしから始めよう。

60年も前のことだ。ビートルズなんか聞くのは不良のことだあ、と当時の高校の校長が叫んでいた。県下の校長先生方の名譽のために申し上げるが、これは他県の話である。ビートルズを愛してやまない同級生は腹いせに、「アホな校長はあん、アホな校長はああん」と歌った。この替え歌の原曲に思い至った方は、相当のビートルズ通である。元の歌詞をカタカナ表記すると、「アイウォンナ ホールジョアハンズ」となる。

あの校長先生は、どういう音楽を善良なる高校生向きと考えていたのだったろうか。

当時の若者と同世代になったはずの我が孫たちにこの話をしてみた。ビートルズを知っているか。名前は知っているらしいが、ほとんど聴くことはないという。少なくとも60年前の熱狂はないようだ。

冷めているのも無理もないか。これが文化というものだ。熱狂と嫌悪の両極端をもたらした一時代の文化も、今では兵どもの夢の跡となり、現代の若者の関心を引かない。

文化芸術は時代とともに変化する。時のリーダーたちが、こんなものは文化ではないといくら叫んでも、若者たちはいち早く新しい文化を受け入れる。一方で、せっかく熱狂した文化さえも、時代が変れば「まあ普通じゃん」と、軽くあしらわれることになる。

民俗芸能の力

話変わって、今度は県内の事例だ。2月15日、池田町の鵜甘神社で、「水海の田楽能舞」を拝見するはずだった。はずだったというのは、前日に急にギツクリ腰になり、無念にも伺えなくなったのだ。60年も前のことを思い出している老人なので、体のあちこちにだいぶガタが来ているのだな。

「水海の田楽能舞」は、民衆の芸能で

ある田楽と、支配階級が愛好した能楽という、異なる芸能が同じ場で上演される珍しい民俗芸能である。国の文化財にも指定されているので、今ではわざわざ見に来る人もいるが、見物人は元来ほとんどいなかった。演者も裏方も含めて、運営はもちろん長老を中心とした地元関係者だ。こうした芸能が、何百年も地域の人がとの力だけで継承されてきたのはなぜだろうか。

生業と生活のつながりが地域の中に息づいていたからである。地域のコミュニティの継承、創造、発展のためには、地域の文化の伝承が不可欠である。今日ではしかし、伝承のためには、若者や子どもたちの関心こそが決め手で、関心を喚起するためには、長老たちの工夫が要るだろう。民俗芸能継承は、まさに少子高齢社会の文化伝承の優れた実験場である。

もう一つ別の事例。先日都内に出る機会があったので銀座のギャラリーに立ち寄った。福井県出身の美術家の個

展を見るためである。蟻塚知都氏の彫刻作品が少々変っている。普通ならば、掘り出された彫刻作品だけ展示するのに、人体を掘り出した元の木が枠となって人体とつながって残されている。残された枠組みによって、元の丸太の形が分かるのである。

しかし、こうしたギャラリーや画廊の個展に、会期中の来場者が千人を超えることはめったにないだろう。わずかな人しか見に来ないにもかかわらず、美術家は仕事をし、展示し続ける。それはなぜだろうか。

文化には創造が何より重要であり、何の役に立つかと揶揄されても、木彫という古い技法のなかに、常に新たな実験をし続ける必要があるからだ。

県民が主体となってこそ投資効果が上がるインパクト投資

に、実に多様な幅広い捉え方がある。百人いれば百通りの考え方があり、ということだ。

福井県の文化政策も様々な努力を積み重ねてきている。設立した文化施設だけでも、音楽文化を振興するハーモニーホールふくい、伝統的な、また現代の新たな美術活動を幅広く紹介する県立美術館、福井県の歴史文化を紹介する歴史博物館と若狭歴史博物館、中世都市の世界的な遺跡である一乗谷朝倉氏遺跡を紹介する博物館など、幅広く活動をしている。

それでも、多様な文化をすべて網羅しているわけではなく、百人百色の多様な文化観のすべてを満足させることはできないであろう。例えば、県立映画館はないし、県立漫画美術館もなければ、県立アニメの殿堂もない。県立劇場もなければ、県立郷土芸能館もない。

一体どうすればいいのだろうか。課題はなかなか複雑で解決方法は難しそうに見える。

そこで、福井県では「福井県文化振興プラン」が昨年策定された。作成のための委員会に私も加えていただき、議論に参加した。その過程で、見えてきたことは、これからの文化政策は専門家だけがビジョンを示して取り組んでも、多様な文化を網羅することはできず、古典の伝承も、変化を先取りする創造性の面でも、必ずしも投資効果は上が



湊ノ芸術祭2024の様子。福井工業大学との連携企画として行った路面デザインワークショップ。地域住民などが三国をイメージしたモチーフを考え、路面シールを設置した。

期待できるアートプロジェクトとはどういうものか。

たとえば、三国港での「湊ノ芸術祭」がある。日本海航路と九頭竜川の河川交通とを結んだ日本海きつての港町の町並み資源を生かしながら、新たなアート活動を展開するプロジェクトだ。あるいは、越前和紙を使ったプロジェクト展開もすでにいくつか始まっている。小浜を中心に若狭の神社仏閣が観光資源として着目されるだけではなく、現代の新たな創造交流拠点化するようなプロジェクトの誕生も待たれる。

高齢者アートこそインパクト投資の原石

個人的に実は最も注目しているのが、高齢男性だけを集めた男声合唱団「ゴールデンエイジふくい」である。コミュニティ形成の下手な高齢男性の創造性を引き出す可能性がある。普通の合唱曲だけを歌っていて、創造性を感じられないとの専門家の声もないではないが、創造性開発に手を差し伸べるのが専門家の仕事ではないのか。これだけ高齢人口が増えているのに、専門家たちが高齢者の表現活動に手を差し伸べないのはどうしたことか。高齢者が最後まで生きがいを持って元気であることこそが、子育て世代の励みになる。そういったシステムが生み出されることで、初めて少子高齢社会の創造的転換がもたらされるのではないか。その意味で



令和6年5月にハーモニーホールふくいで開催された「男声合唱フェスティバル in 福井」の様子。男声合唱団ゴールデンエイジふくいを含み、北陸3県の男声合唱団計6団体が出演する合同演奏会。

この合唱団こそ希望の星である。増え続ける高齢者をインパクト投資の原石としてとらえることでこそ、文化振興プランによる投資効果が期待できる。

アートプロジェクトの推進とネットワークには、アーツカウンシルのような専門家による支援体制が必要である。だが、あくまで、プロジェクトを企画運営する県民を主人公として、その投資効果を一層効果的にするために助力するのが専門家の仕事である。専門家が方向を示すのではなく、方向も決定も当事者たる県民にゆだねられている。そうした、専門家によるアーツカウンシル的な応援推進体制を組んでいくことが、「福井県文化振興プラン」の実現のために求められているのである。

オルガニスト夫妻が魅せる 新しいオルガン音楽の世界



ドイツのゴスラー近郊の街、グラウホフにある1700年代に建てられた歴史的オルガンを訪れて。

見て、触れて、初めてわかる
何百年も前の楽器の“声”

ドイツのオルガン音楽はキリスト

留学先のドイツの地で。留學したの2010年。その1年後に、妻がバツハ・リスト国際オルガンコンクールのためにワイマールにきました。2人でコンクールを受けて、2人とも2次予選まででしたが、彼女はリスト最優秀演奏特別賞を受賞したんです(大平)

「ドイツでは大平さんと、私と同じシュトゥットガルトに留学していた作曲科の松岡あさひさんと一緒に、3人でよく地方にあるオルガンを訪ねて歩くオルガン旅行をしました。今でも彼が作曲・編曲したオルガン作品を演奏することも多く、オルガン巡りの旅を懐かしく思い出します。」(長田)

教会を中心に発達しました。今も、オルガンの演奏会やコンクールは教会で行われています。そしてドイツ各地の教会には何百年も前に作られたオルガンがあり、そうしたオルガンを実際に演奏した経験は、2人にとって何物にも変え難い財産になっているそうです。

「南ドイツと北ドイツとは話す言葉が違うように、楽器も違います。そしてその楽器を想定して書かれた音楽も、ひとくちに「バロック音楽」といっても異なる個性を持っているんです。オルガニストは、楽器が得意としている響きと共に、作品が求める音色を引き出さなければなりません。そのためには、それぞれの楽器を実際に見に行つて演奏して、その楽器の“声”を知ることが必要不可欠なんです(大平)

「本番の前の短い時間で、その楽器の特色を見抜く必要があります。また、どんな響きをもっとも適しているのかというインスピレーションも楽器を前にして初めて得られるもの。そこには、ドイツのオルガン旅行でたくさんのオルガンに触れた経験が生きていると感じます(長田)

オルガン連弾の魅力
ぜひ知ってほしい

今回2人が披露してくれるのは、1台のオルガンを2人で弾く連弾の

演奏で、オーケストラや他の楽器のために書かれた曲を編曲したものが中心です。

「オルガニストは演奏の前に、レジストレーションといって、音色の組み合わせを作る作業をするんですが、連弾の時には、2人分の響きを考えなければなりません。そこが難しいところでもあり、逆にそれがうまくいくと、1人では埋められなかった部分がうまくはまってとても豊かな音楽になります(大平)

「オーケストラの曲を編曲する時には、ここは原曲ではクラリネットだからこの音にしようとか、逆にまったく別の音色で弾いてもおもしろいな、というふうにレジストレーションを考えるのがとても楽しいです(長田)

ヨーロッパではオルガニストのカップルが何組かいるそうですが、彼らは一様に「いいパートナーを持つことはもうひとつの耳を持つことだ」と言っているそう。長田さんと大平さんも、お互いの「もうひとつの耳」をうまく働かせながら、これまでのオルガンのイメージを打ち破るような、新しい魅力いっぱいオルガンの世界を私たちにみせてくれるに違いありません。

構成・文/室田尚子(音楽評論家)



オルガニスト

長田真実
Mami Nagata

INTERVIEW

オルガニスト

大平健介
Kensuke Ohira

撮影協力: パルナソスホール

ながた・まみ(左) ●東京藝術大学音楽学部器楽科オルガン専攻卒業、同大学院修了。文化庁新進芸術家海外研修生としてドイツ・シュトゥットガルト音楽演劇大学に留学、ドイツ国家演奏家資格を取得。2015年のゴットフリート・ジルバーマン国際オルガンコンクール優勝、ドイツ国内および日本各地で演奏活動を展開。現在、姫路パルナソスホール・オルガニストとして、演奏会の企画運営、オルガン普及に力を入れた活動を行っている。

おおひら・けんすけ(右) ●東京藝術大学音楽学部器楽科オルガン専攻卒業、同大学院修了。DAAD給費留学生として渡独。ゲルツブルクおよびミュンヘン音楽大学にて教会音楽と現代音楽を学ぶ。文化庁新進芸術家海外研修員。2016年IONニュルンベルク国際オルガンコンクール優勝。2020年まで、シュトゥットガルト・シュティフツ教会専属オルガニストを務めた。現在、日本キリスト教団聖ヶ丘教会首席オルガニスト、アンサンブル室芸術監督。

異なる環境で育った2人が
ドイツで切磋琢磨

みなさんはオルガンという楽器にどういうイメージをお持ちでしょうか。宗教音楽を演奏するもの、難しそう…など、敷居の高さを感じている方も多いかもしれません。この6月にハーモニーホールふくいで行われるのは、珍しいオルガン連弾のコンサート。このコンサートに登場するのが、長田真実さん・大平健介さん夫妻。2人ともオルガン音楽の本場ドイツで学んだ本格派です。

姫路市出身の長田さんは、高校1年の時に姫路パルナソスホールで開催されていたオルガン講座を受講。そこでオルガンに魅せられ、東京藝術大学に進みます。初めてやってきた東京で見えるもの、聞くものすべてが刺激的で、スポンジのように色々なものを吸収していったという長田さん。一方、大平さんは東京の青山学院中等部・高等部でオルガン部に所属。毎日の礼拝で前奏曲を演奏したり、文化祭で発表したり、とオルガンという楽器と共に中高時代を過ごします。その時点で、かなりオルガンに浸り続けた後だったので、東京藝大に入学した後は、むしろ合唱や作曲、バロックダンスなど、オルガン以外のものに興味が大きく広がりました。そんな、まったく違う環境で育った2人が意気投合したのは、

連弾の妙技 ~The ORGAN~ オルガン:長田真実 & 大平健介

6.8回

13:15開場 14:00開演/大ホール
全席指定・車いす席 ¥2,000(4歳~高校生:半額)

出演/オルガン:長田真実、大平健介
曲目/フォーレ:組曲「ドリー」、ハチャトゥリアン:剣の舞 ほか

※60分(休憩なし)プログラム

チケット発売日(電話・窓口・インターネット)

会員先行 特別協賛: 3/18(火) 友の会: 3/19(水) 一般 3/22(土)

おなじみの名曲を
豊かなオルガンで味わう

第12回ゴットフリート・ジルバーマン国際オルガンコンクール優勝、現在は姫路パルナソスホールのオルガニストを務める長田真実と、ドイツ各地の教会で活躍した後、現在は聖ヶ丘教会首席オルガニストとアンサンブル室芸術監督を務める大平健介。日本を代表する若手2人が、ここハーモニーホールふくいでオルガン連弾を披露します。

プログラムは、フォーレの組曲「ドリー」やハチャトゥリアン「剣の舞」など、おなじみの名曲をオルガン連弾用に編曲したもの。オーケストラにも匹敵する豊かで華やかなオルガン連弾の響きを存分にお楽しみください。



Bruce Liu Interview

ブルース・リウ インタビュー

6月にロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団と共演するピアノリストのブルース・リウ氏。チャイミングなお人柄がうかがえるインタビューをお届けします。

Q. 福井にもリウさんに憧れてピアノリストを目指している子どもたちがたくさんいますが、練習が嫌になっただことはありますか。

A. 長い時間ピアノを練習すると疲れてしまったり、やる気がなかなか出ないこともありましたが、演奏することへの喜びを感じることができるとは、練習の積み重ねのおかげだと実感するに従い、モチベーションが保てるようになりました。

Q. 演奏する上で大切にしていることを教えてください。

A. 音符を完璧に演奏することはもちろん、作品を通して自分の考えや経験を聴衆のみなさんと共有し、心で繋ぐことを最も大切にしています。

Q. 自身の中で大切にしている曲、思い入れのある曲はありますか。

A. 演奏会の予定がない時でも、ショパンは弾きたくなります。ショパンの作品の持つ、カンタービレでオペラのように詩的なメロディは、ピアノで歌うことがいかに難しいことなのかをいつも気づかせてくれます。ピアノを弾くことは、2本の手でオーケストラをコントロールするようなもの。つまり、とてもチャレンジングな楽器なのです。

Q. リウさんのピアノからは輝きと共に、充実した幸せな音がします。

A. ありがとうございます！音楽は僕という人間の大きな部分を占めています。時にはピアノから離れてリフレッシュすることも大切に行っています。忙しい日々の中でも、散歩に出かけて自然を感じたり、家族や友人たちと穏やかに過ごす時間が、私を人間らしくさせてくれているのかもしれない。

Q. ハードなスケジュールの中で、他に楽しみにされていることはありますか。

A. 本日に旅ばかりの日々ですが、その中で楽しみの時間をいつも見つけようとしています。例えば、その土地の料理を食べてみたり、何もせずにカフェに座って人々を観察したり。人生の中のすべては音楽とつながっているもので、たとえピアノから少し離れても、その経験は音楽に良い影響をもたらしてくれるということも感じています。

Q. 指揮者のラハフ・シャニ氏とロッテルダム・フィルとの共演について、思いをお聞かせください。

A. ラハフとロッテルダム・フィルとは一度共演したことがありますが、それは信じられないほど特別な経験でした。彼は指揮者というだけでなく素晴らしいピアニストであり、彼自身もプロコフィエフの「ピアノ協奏曲第3番」を何度も演奏しています。この曲のことをピアニストとしての観点からも理解しているラハフとの共演は、少しプレッシャーも感じますが（笑）。生き生きと音楽が動き出すようなエネルギーで満ちあふれている彼らと、日本で共演できることが本当に楽しみです！

Piano Stars

きつと、あなたも虜になる 新時代の「ピアノ・スター」たち

ここ数年、クラシック音楽の世界では、若く実力のあるピアニストが続々と登場しています。彼らの特徴は、卓越した技術はもちろんのこと、それぞれに豊かな個性を持っていること。また、YouTubeなどの動画を駆使したり、クラシック音楽の枠を超えて新しい活動を展開したりするアーティストもいます。こうした新しいピアニストの登場は、これまであまりクラシック音楽に興味なかった人たち、特に若い世代のファンを数多く生み出しています。

2025年、ハーモニーホールふくいに、そんな新しい「ピアノ・スター」たちがやってきます。いずれも、今、世界を賑わせている人気と実力を兼ね備えたピアニストたち。大ホール、小ホールそれぞれの空間に響きわたる色鮮やかなピアノの音色を通して、ピアノ音楽の奥深さ、豊かさを体験してください。きつとあなたも、「ピアノ・スター」たちの虜になるにちがひありません。

トップバッターは、2015年ロンドン・ティボ・クレスパン国際コンクール第3位の實川風。パツハとベール

トーヴェンを中心として本格的なレパートリーに取り組むほか、室内楽の分野でも活躍。現在、若手ピアニストの中で特に注目を集める實川が、ガルガンチュア音楽祭のサテライト公演としてハーモニーホールふくいに登場。ゴールデンウィークに行われる休憩なしの1時間公演。どうぞ気軽に足を運んでみてください。

次に登場するのは、2021年第18回シヨパン国際ピアノ・コンクールで優勝したブルース・リウです。コンクール以降世界中で引張りだこの若きスターは、これまでにロサンゼルス・フィル、サンフランシスコ響、フィラデルフィア管、NHK交響楽団などのステージに出演してきました。そんなリウが今回共演するのは、クラシック音楽の長い歴史を持つオランダを代表するオーケストラ、ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団。プロコフィエフのピアノ協奏曲第3番でその真価を発揮します。指揮は、2018年にヤニツク・ネゼーセガンから首席指揮者のバトンを引き継いだラハフ・シャニ。ブラームスの交響曲第4番も楽しみです。

2025年の締めくくりには、今まさに「旬」を迎えている日本人ピアニスト、小林愛実のリサイタルを。幼少期から「天才少女」と呼ばれてきた小林が大きく羽ばたいたのは、やはり第18回シヨパン国際ピアノ・コンクールで第4位を獲得したことでしょう。その後結婚・出産を経て、演奏表現に新たな魅力が加わった小林。進化し続ける「ピアノ・スター」の「現在」を聴くことができる貴重な機会です。

2025年は5年に1度のシヨパン国際ピアノ・コンクールが開催される年でもあります。今年、もつとも熱いピアノ音楽を、ここ福井であなた自身の目と耳で体験してください。

構成・文/室田尚子(音楽評論家)

黒と白のスーツに身を固めたイケメン・ピアニスト、ポールとアンドレアスの2人が、クラシック音楽の名曲からポップス、現代音楽まで様々なプログラムで対決する「ピアノ・バトル」は、コロナ禍で中止となつた2021年公演のリベンジ企画。世界各国で25万人もの観客動員を誇る、全く新しいクラシック・エントテインメントです。MCを務めるのは、クラシックソムリエとして活躍する朝岡聡。男たちの熱き闘いに注目ください。

~~~~~Piano Stars~~~~~

### 4公演チケット購入特典 プレゼント!

「シヨパン国際ピアノ・コンクール」開催年に贈る対象4公演すべてのチケットをお買い求めいただいた方に

2026年1月10日(土)開催「ニューイヤーコンサート2026 ウィーン・リング・アンサンブル」公演のS席を半額でお楽しみいただける特典をプレゼント!

1年を通して、世界に誇るHHFの音響空間で極上の音楽をご堪能ください。

※対象者は同一の購入者に限ります。購入者情報の統合は出来かねます。予めご了承ください。 ※「ニューイヤーコンサート」チケット(半額購入特典適用)は、お電話または当ホール窓口でお求めください。 ※半額購入特典と会員割引の併用はいただけません。

協賛: **小林愛実**  
ピアノ・リサイタル  
12.13(土)

14:15開場 15:00開演 / 小ホール  
全席指定・車いす席 ¥5,000  
(小〜大学生:半額)  
出演/ピアノ:小林愛実  
曲目/シューマン:クライスレリアーナ ほか

チケット発売日(電話・窓口・インターネット)  
会員先行 特別協賛: 9/9(火) 友の会: 9/10(水)  
一般 9/13(土)

協賛: 興和江守株式会社  
クラシック・エンターテインメント!  
ピアノ・バトル  
10.24(金)

18:15開場 19:00開演 / 大ホール  
全席指定・車いす席 ¥4,000  
(小〜大学生:半額)  
出演/ピアノ:ポール・シス、アンドレアス・カーン  
通訳・MC:朝岡 聡  
曲目/ドビュッシー:月の光 ほか  
(共催:福井テレビ)

チケット発売日(電話・窓口・インターネット)  
会員先行 特別協賛: 7/15(火) 友の会: 7/16(水)  
一般 7/19(土)

協賛: 福井銀行 福井新聞社  
ラハフ・シャニ指揮  
ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団  
ピアノ:ブルース・リウ  
6.25(水) 特別協賛会員 2割引

18:15開場 19:00開演 / 大ホール  
S席・車いす席 ¥18,000 A席 ¥16,000  
B席 ¥12,000 バックシート ¥10,000 (小〜大学生:半額\*)  
出演/指揮:ラハフ・シャニ、ピアノ:ブルース・リウ  
管弦楽:ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団  
曲目/プロコフィエフ:ピアノ協奏曲 第3番、ブラームス:交響曲 第4番 ほか  
(共催:福井テレビ)

チケット発売中 \*学生特別チケットあり

協賛: **実川 風**  
ガルガンチュア音楽祭 in ふくい  
ピアノ・リサイタル  
5.2(金)

18:15開場 19:00開演 / 小ホール  
全席指定・車いす席 ¥2,000  
(小〜大学生:半額)  
出演/ピアノ:實川 風  
曲目/シヨパン:バラード 第4番  
ドビュッシー:月の光  
J.S.バッハ=ブラームス:シャコンヌ ニ短調 ほか

※60分(休憩なし)プログラム  
企画制作:ガルガンチュア音楽祭実行委員会

チケット発売中





ヴァイオリン：篠原悠那 チェロ：坪井大典 ピアノ：徳永雄紀

## 越のルビープロジェクト 篠原悠那&坪井大典&徳永雄紀 ピアノ・トリオ ～15年ぶり再結成～

8.22 金

18:15開場 19:00開演 / 小ホール

全席指定・車いす席 ¥3,000

(小～大学生:半額)

出演 / ヴァイオリン:篠原悠那

チェロ:坪井大典

ピアノ:徳永雄紀

曲目 / 笠松泰洋:ピアノトリオのための「メロディ」

～ゴールドベルク山根美代子氏の思い出に～

メンデルスゾーン:ピアノ三重奏曲 第1番 ほか

チケット発売日(電話・窓口・インターネット)

会員先行 特別協賛: 5/20(火) 友の会: 5/21(水)

一般 5/24(土)

### 福井で育った3人が 故郷に恩返しコンサート

福井県出身で幼少期から研鑽を積み、現在は国内外で目覚ましい活躍を続ける篠原悠那、坪井大典、徳永雄紀の3人。共にハーモニーホールふくいが開催する「若い芽コンサート」への出演経験があり、2010年には「越のルビー音楽祭フェスティバルコンサート」開演前のプロムナード・ステージでピアノ・トリオを披露しました。そんな3人が15年ぶりに再びハーモニーホールふくいに帰ってきます。

プログラムには、モーツァルト、ドビュッシー、メンデルスゾーンのピアノ三重奏曲と共に、「若い芽コンサート」出演時に指導を受けた笠松泰洋作曲のピアノ・トリオのための「メロディ」をチョイス。越のルビーアーティストとしても活動する3人が、自らを育んだ福井の地で、見事に花開いた音楽の世界を披露します。



ヴェスタノー・バンド

心と体で感じるひととき  
本場の夏至祭を体験しよう

ヨーロッパ各地には夏至を祝うお祭りがありますが、特に北欧・スウェーデンの夏至祭は、長い冬が終わり太陽の恵みに感謝する、1年でもっとも大切な日となっています。広場の真ん中には緑の葉で飾られた柱が立てられ、民族衣装を着たり花冠を被った人々が、その周りで手を繋いで、歌い踊る。そんな本場スウェーデンの夏至祭が、ここ福井にやってきました。

太陽に感謝するスウェーデンの特別な伝統音楽を奏でるのは、1万以上の湖が点在することで知られるヴェルムランド地方にある「ヴェスタノー・ミュージック・シアター」で音楽プロデューサーを務めるマケナス&ソフィア・スウェーデンを代表するミュージシャンが集結したヴェスタノー・バンド。ハーモニーホールふくいには夏至柱が立てられ、可愛いダリラナホースをはじめとする北欧雑貨のマーケットも開催されます。福井にいながらにして北欧の夏至祭を体験できる貴重な1日。あなたも太陽の恵みを感じに、ハーモニーホールふくいにいらしてみませんか。

## 北欧の夏至祭 ～ヴェスタノーが奏でる スウェーデン伝統音楽の世界～

6.14 土

14:15開場 15:00開演 / 大ホール

全席指定 ¥2,000(小～大学生:¥500)

出演 / ヴェスタノー・バンド

曲目 / オーヴェルステンナンバワフルウーマン

スティンセン:鉄道員 ほか

(協力: (公財)福井県国際交流協会)

チケット発売日(電話・窓口・インターネット)

会員先行 特別協賛: 3/18(火) 友の会: 3/19(水)

一般 3/22(土)

同日開催イベント

### 北欧の彩りマルシェ

会場 / 大ホールホワイエ、エントランス

時間 / 13:00～18:00

※15:40頃(1部終演)以降は本公演にご来場の方のみ

イベント内容

●ロッピス(蚤の市)

●北欧の手仕事

●ダンス体験



フェスティバル・カルテット

## 若い芽コンサート2025

8.10 日

18:15開場 19:00開演 / 小ホール

全席自由・車いす席 ¥2,000(小～大学生:¥500)

出演 / ピアノ:加藤 折、松原百奏、ソプラノ:谷 るい

フェスティバル・カルテット(ヴァイオリン:松谷由美、荒井亮子、ヴァイオリン:笠川 恵、チェロ:荒井 結)

曲目 / 第1部:ソロ・ステージ、第2部:弦楽四重奏との共演ステージ

チケット発売日(電話・窓口・インターネット)

会員先行 特別協賛: 5/20(火) 友の会: 5/21(水)

一般 5/24(土)

### 福井の子どもたちの 未来はここから始まる

20回目を迎える「若い芽コンサート」。公開オーディションで選ばれた福井ゆかりの子どもたちが、ソロ演奏、そしてプロの弦楽四重奏団と共演する夢のステージです。未来に羽ばたく瞬間にお立会いください。

協賛: (公財)げんてんふれあい福井財団

## ハーモニーぴくにつく ～ゆるる・はねる・おどる・ダンス!!!～

7.6 日

2回公演 ① 9:30開場 10:00開演

② 11:30開場 12:00開演

大ホール

全席指定・車いす席 ¥1,000

(0歳～高校生:半額)

出演 / ピアノ・ナビゲーション:高橋かほる

オルガン:山本真希

クラリネット:南部匡恵

サクソフォン:片山奈々愛

マリンバ:平岡愛子

曲目 / ビゼー:「アルルの女」から「ファランドール」

ハチャトゥリアン:バレエ音楽「ガイヌ」から「剣の舞」

モンティ:チャールダッシュ ほか

チケット発売日(電話・窓口・インターネット)

会員先行 特別協賛: 4/22(火) 友の会: 4/23(水)

一般 4/26(土)

### リズムの風に乗って ワクワクの音楽体験を!

子どもたちにクラシック音楽コンサートの鑑賞マナーを身につけてもらうことを目的に、2011年に福井県内の園児や幼児を対象にスタートした「ハーモニーびくにつく」。ピアニストの高橋かほるのナビゲートで、ハーモニーホールふくいのオルガンとさまざまな楽器がコラボレーションする45分間のコンサートは、特に小さなお子さまが飽きずに楽しめるご好評をいた



ピアノ・ナビゲーション:高橋かほる オルガン:山本真希



クラリネット:南部匡恵 マリンバ:平岡愛子



サクソフォン:片山奈々愛

だいています。

今年は「リズム」をテーマに、ビゼーの「アルルの女」やハチャトゥリアンの「剣の舞」など、特にリズムが特徴的な名曲を選んでストーリー仕立てでお贈りします。クラリネット、サクソフォン、マリンバというリズムが得意な楽器とオルガンが合わさると、いったいどんな音楽になるのでしょうか。ご家族そろってワクワクを体験しにいらしてください。当日は10時と12時の2回公演なので、好きな時間にどうぞ。



トランペット:松井秀太郎



ピアノ:壺坂健登

### 新時代の才能 全く新しい音楽を、今

ジャズ界の巨匠・小曾根真が見出した二人の天才が美浜町のなびあすに登場!松井秀太郎は、プラスバンドで楽器を始め、今やジャズ界に新風を吹き込む期待のトランペッター。そして壺坂健登は、ジャンルの越えた多彩な活動で魅せる次世代のピアニスト。既存の枠にとらわれない新しい音楽は、大人だけでなく子どもたちにも体感してほしい公演です。

協賛: 関西電力

## 松井秀太郎 DUO

7.13 日

14:15開場 15:00開演

会場 / 美浜町生涯学習センターなびあす

全席指定・車いす席 ¥3,000(小～大学生:半額)

出演 / トランペット、フリューゲルホルン:松井秀太郎、ピアノ:壺坂健登

曲目 / ガーシュイン:ラプソディ・イン・ブルー(トランペット&ピアノ版) ほか

(共催: 美浜町、美浜町教育委員会)

チケット発売日(電話・窓口・インターネット)

会員先行 特別協賛: 4/22(火) 友の会: 4/23(水)

一般 4/26(土)





広崎うらん(演出・振付家)

ひろさき・うらん●バラエティタレント、役者として、テレビ、ラジオ、舞台などで活躍。蜷川幸雄演出「ロミオとジュリエット」出演を機に、蜷川幸雄の舞台に数多く携わる。演出家ジョン・ケアーに見出され、2012年文化庁新進芸術家海外派遣員として渡欧。演劇、ダンス、オペラ、タンツテアターの現場へと飛び回る。現在は、演出家、振付家として演劇、ミュージカル、オペラ、コンサート、テレビなど様々なフィールドで活躍中。



ハーモニーホールふくい 大ホールにある、ステージ上空の円形のシャンデリアと、客席上部に連なる6つのシャンデリア。これらは、宮殿や劇場をはじめ、世界の名だたる建築に採用されているウィーンのガラス工芸店「J.&L. LOBMEYER」が手掛けたもの。

私の好きな

## ハーモニーホールふくい

### 福井で出会う、ウィーンの輝き

「ウィーン楽友協会みたい」初めてシャンデリアを見た時、自然とそう言葉にしました。そうしたら、本当に楽友協会と同じロブマイヤー製だったんです。福井とウィーンにこんな共通点があるなんて、しかもウィーンよりスケールが大きいじゃないか！と衝撃を受けました。ロビーなどではなく、ホールの中、客席の真上にシャンデリアがあることが、このホールの特別さ。そのまでも素敵ですが、照明が当たった瞬間、反射した光がまた違う魅力を生み、演出の一部としても生きてきます。公演ごとに表情を変えながらも、邪魔にならず確かな存在感を放っている。このシャンデリアの魅力を、来年2月再演のミュージカル『雪の女王』で、存分に活かせるのがとても楽しみです。

## カーテンコール

### 越のルビープロジェクト 音楽×お芝居「リスト～愛の夢～」

2025年2月15日(土)開催



音楽家の人生を音楽とお芝居で描く、コラボ公演。フランク・リストを鈴木大介が演じ、バリトンの井上雅人による語りとともに、随所に織り込まれた大谷研人のピアノソロ、井上との歌曲によって、リストの人生が情豊かに描き上げられました。

- 見ごたえ聴きごたえがあり、大満足です。(50代/女性)
- 3人の情熱が届いてきました。(70代/女性)
- ピアノ、歌、語り、演技を十分楽しむことができました。(70代/男性)
- とても新鮮で、様々な作曲家を「音楽×お芝居」で見たいと思いました。(50代/男性)
- リストがとても人間的だと感じられて楽しかった。(40代/女性)
- 大谷さんのピアノ、鈴木さんの立ち居振る舞い、井上さんの歌声、どれも素敵でした。(30代/女性)



左から 三好まいさん 三好 凛さん  
三好孝典さん (福井市)

以前ハーモニーホールふくいで大谷さんのリサイタルを聴きファンに。今回、井上さんの歌は初めてでしたが、ピアノとバリトンの調和に親子で感動！息子は「何度も聴きたくなる公演だった」と大満足。美しいハーモニーに、心満たされる時間が過ごせました。



阿部裕恵さん (福井市)

テレビCMを見て、音楽と芝居のコラボに興味を持ちました。音楽やピアノ、演出が融合したステージは、誰もがスッと入り込める内容で素晴らしいです！歌の最中に歌詞の字幕もあってわかりやすく、歌い手の感情がより伝わってきました。特に「ラカンパネラ」は心に響く一曲でした。



いまがわ・ひろよ●若狭町に生まれ、小浜市、福井市で育つ。シュトゥットガルト国立音楽大学、ザルツブルク・モーツァルテウム国立音楽大学修士課程首席卒業。英国王室宮殿内での御前演奏やヨーロッパ各地の音楽祭出演のほか、国内外の数多くのオーケストラと共演。アウトリーチ活動や次世代を育てる企画も好評を博し、幅広く活動を展開している。大阪芸術大学演奏学科教授、及び東京音楽大学指揮科特別アドバイザー。

## 越のルビーアーティスト 今川裕代 (ピアニスト)

若手の指導にも力を尽くし、音楽という芸術文化を次の世代へつなげていく。

「音楽という芸術文化を、次の世代へどう受け継いでいくか。社会と芸術をつなぐ一員として、私にできることは何かという想いは年齢を重ねるごとに強くなってきています」。演奏家、そして指導者として活躍を続ける今川さんは、自身の使命をそう熱く語ります。

母親のお腹の中にいた頃から、父親が愛するクラシック音楽を聴いて育ったという今川さん。5歳の誕生日からピアノのレッスンを始め、高校卒業後、ピアニストを目指してドイツの音楽大学に留学しました。現地の風景や言葉など、人々の暮らしを感じ、音楽を取り巻く多彩な芸術文化を吸収できたことは、「今の表現のベースになっている」と振り返ります。オーストリアの大学院ではピアニストに必要なスキルとともに、「音楽とは何か、表現とは何か」という哲学的なレッスンを受けました。自分を見つめ直し、音楽の魅力の深さを改めて感じるきっかけになったといいます。

留学中から、ヨーロッパで演奏活動を行い、2002年にはハーモニーホールふくいでもリサイタルを開催。その後も、NHK交響楽団との共演など、「さまざまな機会をいただき、大きなステップアップになりました」とはほほ笑みます。

「若い芽オーデションは夢を掴むための第一歩。そして越のルビーアーティストの活動は自分の演奏に責任を持ち、探究・発見・喜びの場になるもの。ぜひ前向きにトライしていただきたいです」と、福井で音楽を志す若者へエールを贈ります。



2024年8月18日「大阪芸術大学プロムナードコンサート2024」/オーチャードホール。指揮者の大友直人氏(写真中央)、ピアニストの仲道祐子氏(第1ピアノ)、大阪芸術大学管弦楽団と共演。



2024年10月5、6日「今川裕代ピアノアカデミー2024 Special Lesson」/バレー若狭。公開レッスンの様子。

越のルビーアーティストとは、(公財)福井県文化振興事業団運営の「越のルビーアーティストバンク」に登録する福井県出身もしくは在住のプロの演奏家のこと。このアーティストバンクの活動に(公財)げんぐんふれあい福井財団にご支援をいただいております。



公式ホームページでは「越のルビーアーティスト」の演奏動画もご覧いただけます。  
<https://www.hbf.jp/artistbank/>

- 今後の活動  
3月30日(日):「今川裕代ピアノコンサート」/おおい町里山文化交流センター ぶらっと  
6月15日(日):「関西音楽コンクール」審査員/大阪芸術大学芸術劇場
- 今川裕代・公式ホームページ  
<https://www.hiroyoimagawa.net>



キーパーソン

## 一般社団法人うみのいえ

代表理事 米村智裕さん



よねむら・ともひろ ●東京藝術大学音楽学部声楽科卒業後、芸術文化分野を革新する手段としての経営学に関心をもち一橋大学大学院商学研究科経営学修士コース(MBA)に進学。投資株式会社を経て、芸術文化企画を行う株式会社クロスアートを起業。2021年コロナ禍をきっかけに暮らしを見直すため池田町に移住。

作家が制作に集中できる場を作り  
山間の古民家から文化の層を厚くする

四方を山に囲まれた池田町に、音楽が鳴り響き、美術作家が絵を描き、時に映画の舞台になり、演劇にも触れられる一軒の家があります。「うみのいえ」と名付けられたこの古民家は、音楽ディレクターの米村智裕さんが、「ここは劇場になる」と直感し、2021年に移住。自らの手で改装を進めながら、「アーティスト・イン・レジデンス」として育ててきました。

ここでは芸術活動を日常生活から切り離すことなく、衣食住の営みや教育、里山の再活用といった要素を有機的に結びつけています。これまで東京藝術大学のハープ講師による講習会や、映画撮影チーム、劇団、油絵画家、詩人など、多様なジャンルのアーティストが訪れました。米村さんは「作家の創作活動を優先」を軸に据えて制作の場を提供するとともに、その過程を地域に開くことで、芸術創造の現場を身近に感じられる機会を作り出しています。



演劇家ら3名が滞在し、うみのいえを小劇場にしている公演「ちょっと待ってね」の様子。終演後は出演者と観客の交流会も行った。



工芸家(染織)の石渡 結さんが川で泥染の糸を洗う様子。約1ヶ月間滞在し、高さ3mに及ぶ大きな織物作品を制作した。

【一般社団法人うみのいえ】「みずから生き」、「みずから創る」をテーマに、芸術家の滞在・制作・発表の支援を活動目的に据え、年4回程度作家を受け入れている。「うみ」には、織・産む・熟むという意味を持ち、新たな暮らし方を産み出したい、あるいはその暮らしは創造的であってほしいという願いを込めている。令和4年3月1日設立。

■活動報告はこちらから

<https://uminoie.me/>

うみのいえ uminoie.me

現在、2階と屋根裏は図書博物室への改装が進められており、1階には子どもたちの創造空間を設ける計画も進行中です。米村さんは「創造と探求の場所として最小の複合文化施設を作る」というビジョンを持ち、さらには「このような場が地域ごと町ごとに点在する福井モデル」の構築も視野に。単なる理念に留まらず、着実な実践を踏まえながら、米村さんの思いは具現化されつつあります。

※アートプロジェクト支援事業助成金の採択事業と活動者をご紹介します。

## 第26回 野の花文化賞 《受賞に寄せて》

昭和58年、福井県文化振興事業団が『野の花文化賞』を創設して以来、今回で26回目。団体受賞の「きたひの歴史セミナー」「豊婦人福祉協議会」、個人受賞の齊藤信一氏に、それぞれの活動や受賞されてのご感想をお伺いしました。



## PROFILE

## きたひの歴史セミナー

1991年、「古文書を読む会」として発足。2010年に「北日野の歴史に親しむ会」に改名し、15年から現在の名称。会員数9名(2025年2月現在)

きたひの歴史セミナー(越前市)  
地区の歴史・文化を未来に活かしたい

**地区の歴史を集約した「きたひの探訪」**  
越前富士として親しまれている日野山。その北側に広がる北日野地区は日野川に育まれた田園地帯で、各町内には神社仏閣など多くの歴史遺産が点在しています。

きたひの歴史セミナーは、北日野公民館「総合ふるさと学級」の「古文書を読む会」として発足。古文書を読み解きながら地区の歴史を学んできましたが、幅広い方法で地域の歴史を探ろうと、会の名称を変更しました。

地区内の歴史遺産を調査し、その結果をまとめる活動を始めたのは約6年前。代表の武内忠男さんは「それまでの学習で、知らないことがたくさんあったので、北日野の歴史を

後世に伝えなければと考えました」と話します。毎月第2火曜日の公民館での活動に加え、現地調査を実施し、各メンバーが寺社や遺構などを訪問。「自分の目で見て、過去の出来事に詳しい方から話を聞くと理解が深まりまし、何より楽しいんです」

10数人のメンバーが3年余りをかけた取り組みは、600ページに及ぶ「きたひの探訪」として結実。2022年4月に、同地区自治振興会との連携により発刊され、図書館や学校などにも配布されました。反響は大きく、県外からも問い合わせがあったそうです。副代表の大浦和子さんは、「江戸時代、洪水を繰り返す日野川の護岸工事に尽力したのが、古郡文右衛門という人でした。鯖江陣屋の代官で、その祖父は駿河の国の人。『きたひの探訪』に古郡さんの記事があることをネットで知った静岡岡富士市の学芸員さんが、わざわざ訪ねてこられたんですよ」と声を弾ませます。

## 活動の成果を活用し地域に貢献

歴史を活用した地域活性化も、会の目標です。2024年3月の北陸新幹線「越前たけふ駅」開業に合わせ、27カ所の名所旧跡などを紹介する「KITAHIINO見どころMAP」を作成。地元の若者や中学生がイラストを描くなど、地域ぐるみで完成させました。

## 活動内容



北日野地区の「ふるさと宝めぐり」では、参加者を日野山に案内し、語り部も務めた。



きたひの歴史セミナーの皆さん。



「きたひの探訪」「KITAHIINO見どころMAP」「絵馬めぐり」など活動成果の数々。「KITAHIINO見どころMAP」は北日野地区自治振興会や越前市HPからも閲覧可能。

今年4月には、地区内の神社などに奉納された絵馬の調査結果を冊子にまとめて発行する予定です。「立派な絵馬がたくさんあったのは、絵師の夢楽洞万司が何代にも渡って福井で活躍していたからかもしれません。当時の人々の深い信仰や、裕福な家の存在もうかがえました」と武内さん。

現在は、今年から新たに取り組む戦争体験の聞き取りに向けて準備中です。地区の歴史遺産を調べたことで、新たな目標も生まれています。大浦さんは「日野山の遥拝所が、味真野や栗田部など北日野以外の地域にもあったので、各地から日野山信仰の歴史を持ち寄る「日野山サミット」のようなイベントが開けたら」とアイデアを話してくださいました。

地区の深い歴史に魅了された皆さんの探訪に終わりはなく、これからも続きます。



# 野の花文化賞

第26回

《受賞に寄せて》

【野の花文化賞とは】県内には、ふるさとの文化を継承し、これを支えて努力をしている多くの方々や、地域社会の中で個性豊かな生活文化の創造と普及のために地道な活動を続けている方々がおられます。これらの方々の多くは、厳しい自然の中にあって、ひっそりと咲いている「野の花」に例えられるでしょう。この賞は、このような方々に視点を向け、その功労をたたえるものです。

## 齊藤信一さん（福井市）

### 「朝六ツ太鼓」を子どもたちに教え 地元の伝統文化を後世に伝えたい

#### 基本はみんなで楽しむこと

北陸道沿いの宿場町として栄えた麻生津地区は、西に日野川、南に浅水川が通り、人と物が行き交う交通の要衝でした。地区を流れる朝六ツ川に架かる「朝六ツ橋」は、三国湊との間を往復する川船の発着点。北前船などで運ばれる荷物の陸揚げや船積み風景が、うたと、威勢のよい掛け声とともに打ち鳴らされる太鼓は、いつしか「朝六ツ太鼓」と呼ばれるようになったそうです。明治以降、鉄道の開通や戦争の影響で途絶えましたが、戦後、有志により再興されました。

子どもの頃から祭りなど賑やかなことが好



PROFILE  
齊藤信一  
1944年生まれ。福井市役所職員と農業を兼業しながら、麻生津地区青少年育成会（現子ども会育成会）委員として活動。「朝六ツ子供太鼓」では、45年間で約300人を指導。福井県太鼓連盟事務局長、（公財）日本太鼓財団運営委員等を務める。

#### 活動内容



齊藤さんの農作業小屋を改修した練習場。大小さまざまな太鼓が置かれ、毎週土曜日の夕方に練習を行っている。



「ハーモニーホールふくい」で開催される恒例の麻生津地区のイベント「観月の夕」で演奏を披露。

きだった齊藤信一さんは、20代で「朝六ツ太鼓」の保存・継承活動を始め、1979年、委員を務める同地区青少年育成会（現子ども会育成会）が、クラブ「朝六ツ子供太鼓」を立ち上げた際に指導者になりました。「朝六ツ太鼓を後世に残したかった」と当時を振り返ります。

地区、近隣の地区へと広げ、これまでに指導した子どもは約300人に。現在は、かつてのメンバーの子どもも所属し、世代を超えたクラブとなっています。

地区の祭りやイベントを盛り上げる「朝六ツ子供太鼓」の特徴は、「皿回し」の披露。取り入れたのは齊藤さんです。「小さい頃に見た伊勢大神楽の曲芸がヒントになりました。演奏する子どもたちと、聞いてくださるお客さんの両方に喜んでもらうために、楽しめることを第一に考えています」

#### 演奏後の達成感や笑顔が原動力

「朝六ツ子供太鼓」は、年1回、福井県太鼓連盟が主催する発表会に出場しています。入賞を目指しつつ、齊藤さんが最も大事にしているのは全員で出場すること。本番、全員のリズムと手足の動きがそろったときは、「よし！」と内心ガッツポーズ。大きなイベントでは、1986年に小浜市で開かれた「全国豊かな海づくり大会」や、2005年に福井県で開催された「国民文化祭」の「100人太鼓」に参加しています。「演奏後の子どもたちのほっとした表情、褒められたときのうれしそうな笑顔がいいですね。緊張を乗り越えた達成感が、太鼓を続ける意欲につながるのだと思います」と話します。

現在、クラブに所属するのは11人。子どもの数が減少する中、メンバーの確保は常に課題です。齊藤さんは太鼓の練習場横の畑で、地域の子どもたちに野菜の収穫体験をする機会を提供。「太鼓にも興味を持ってもらえたら」と期待を寄せています。

## 豊婦人福祉協議会（鯖江市）

### 地区の昔話を紙芝居で読み聞かせ

#### 昔話を集めた「豊むかしむかし」

鯖江市西部の豊地区には、当地の歴史を物語る場所が数多く残っています。これらにまつわる伝説などをまとめた本を発行し、さらに紙芝居にして読み聞かせを行っているのが豊婦人福祉協議会の皆さんです。

本を作るきっかけとなったのは、当時、豊公民館の職員だった菱川恵子さん一家の行動。「宿題で、地域の伝説を調べることになった娘が、おじいちゃんに教わった場所を主人と一緒に見に行きました。帰ってきた時の2人の表情が生きてきていてびっくり。それまで知らなかったことを発見してうれしかったんですね」。昔の話を将来にわたり残していきたいと思った菱川さんは、元教員の橋本たづのさんとともに豊婦人福祉協議会の人々に働きかけ、昔話の本を作ることが決定。1991年春のことでした。

まずは公民館を会場に、老人会の方からの聞き取りを開始。進行は橋本さん、カセットテープへの録音は菱川さんが中心となって担当しました。挿絵の一部を小学生に描いてもらうなど多くの人の協力を得て、11月に「豊むかしむかし」第1集が完成。以後4年間で第4集まで発行し、75話をまとめました。内容は災害や農業など暮らしに密着したものから、神仏の伝説などさまざま。小学生でも読める文章を使いながら、地元の言葉も伝えた

いと、会話の方言はそのまま残しました。

#### 紙芝居を使った読み聞かせが好評

「豊むかしむかし」のお話し会の活動が定着した頃、会員があるイベントで、「絵があつた方がよかった」という子どもの声を聞き、会へ持ち帰りました。早速話し合い、紙芝居を作ることを決定。2012年から毎年2、3作ずつ手作りし、現在は30作程となります。13年からは、豊小学校で紙芝居を使った読み聞かせをスタート。子どもたちは、話に登場する場所が自宅の近くだと知ると、特に興味を示し、目を輝かせるとか。また、同校がふるさと学習の一環として20年から実施して



PROFILE  
豊婦人福祉協議会  
1960年設立。福祉施設でのボランティア活動や結婚相談、子育て支援等に取り組む。会員数29人。（2025年2月現在）

#### 活動内容



豊婦人福祉協議会の皆さん。



豊小学校での読み聞かせの様子。低・中・高学年に分け、それぞれ年3回ずつ行っている。

野の花  
〜無二の友〜  
広部 英一

風の中で光る  
野の花の無垢のいのちよ  
大地に根を張って咲いている  
強い花  
重い雪にも耐えて一筋に生きていく  
けなげな花  
驕らず つつましく咲いている花  
清楚な花 一生懸命に咲いている花  
向き合えば  
無二の友のごとく  
優しく語りかけてくれる花  
野の花のいのちが風の中で光る  
大事ないのち 大きな光  
野の花よ



平日午後のおトクな企画「ハーモニー プンカさろん」

芸術文化や食に触れていただける人気企画。文化にまつわるお話と演奏をお聴きいただけます。県内各店のスイーツやコーヒーを、終演後にホワイエにてお楽しみいただけるのも魅力のひとつ。

- 4/22 (火) 第34回 オランダ黄金時代の絵画―光・音楽・フェルメール**  
時 間 / 13:30開演  
出 演 / お話：芹川貞夫(元福井県立美術館長)  
演奏：大宅さおり(ピアノ)
- 9/9 (火) 第35回 J.シュトラウスⅡ 生誕200年記念によせて**  
時 間 / 13:30開演  
出 演 / お話・演奏：豊永美恵(クラリネット)  
演奏：吉田珠代(ソプラノ)、竹沢友里(ピアノ)
- 11/11 (火) 第36回 アンデルセンが描いた「雪の女王」**  
時 間 / 13:30開演  
出 演 / お話：高橋知伽江(劇作家・翻訳家)  
演奏：未定

令和7年度アートプロジェクト支援事業助成金のお知らせ

福井県の地域文化の発信や新たな地域文化の創造、地域課題の解決に寄与することを目的に、県内各地で文化芸術を活用し、地域住民が担い手となり地域活性化に取り組む事業を支援します。

対 象 者 / 福井県内に主たる活動拠点を置く団体(法人格の有無、種別は問いません)

支給上限額 / 20万～200万円 ※区分によって異なりますので、詳細は募集要項をご確認ください。

募集締切 / 令和7年3月31日(月)

提出・お問い合わせ先 / 福井県交流文化・スポーツ局文化課

〒910-8580 福井市大手3丁目17-1

TEL.0776-20-0582 E-mail: bunka@pref.fukui.lg.jp



Fukui Art Project



募集情報はこちら▲

編集後記

新シーズンのラインナップはご覧いただけましたでしょうか。シーズンの始まりは平日午後の「プンカさろん」。オランダで活躍した画家たちが描いた光と影のお話を、西洋美術をピアノ演奏と共に学べる機会は音楽堂ならでは。  
今年5年に一度の「ショパン国際ピアノ・コンクール」開催年。前回、予備予選から本選まで、コンテストによる熱戦を見守られた方もいらっしゃるでしょう。その回の覇者ブルース・リウ、4位入賞の小林愛実が登場。輝きを放つスターたち揃い踏みシリーズをお楽しみに。  
長い冬を過ごしたからこそ味わえる春の喜び。6月の「夏至祭」では気候風土が似通った北欧の文化を体感してください。  
新年度をアクティブに過ごすなら音楽堂へ！

【ハーモニーホールふくい 特別協賛社ご芳名】 ※50音順

公演協賛社(2025.4-2026.3)



法人協賛社



15 第101回 福井県合唱祭  
第48回 全日本おかしなコーラス  
福井県大会

●大ホール ●10:00開演  
●全席自由:500円  
※福井県合唱連盟 大瀬  
☎0778-51-5856

ピティナ・ピアノコンペティション  
福井地区

●小ホール ●10:00開始  
●無料(関係者のみ)  
※ピティナ福井支部(MPC楽器センター福井)  
☎0776-52-0711

21 福井合奏団  
第59回 定期演奏会

●小ホール ●17:00開演  
●一般:2,000円  
●小中高生:1,000円  
(当日各500円増)  
※福井合奏団 橋本  
☎080-4254-4904

22 福井ブラスアカデミー  
第48回 定期演奏会

●大ホール ●14:00開演  
●大人:前売 800円/当日 1,000円  
●高校生以下:200円  
※福井ブラスアカデミー 事務局  
✉fukuiblasakademie@gmail.com

こどものための  
ピアノフェスティバル 2025  
福井地区予選

●小ホール ●12:00開始  
●無料(関係者のみ)  
※トヤマ音楽教室  
☎0776-54-1023

25 ラハフ・シャニ指揮  
ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団  
ピアノ・ブルース・リウ

●大ホール ●19:00開演  
●S席:車いす席:18,000円  
●A席:16,000円  
●B席:12,000円  
●バックシート:10,000円  
※ハーモニーホールふくいチケットセンター  
☎0776-38-8282

27 第13回  
中部・北陸仏教婦人会大会

●大ホール ●12:30開演  
●無料(関係者のみ)  
※福井地区仏教婦人会連盟 大須賀  
☎090-4327-0506

28 ふれあいコンサート in ふくい

●大ホール ●14:00開演  
●全席指定:車いす席:2,000円  
(4歳~高校生:半額)  
※ハーモニーホールふくいチケットセンター  
☎0776-38-8282

トリオ・レ・ヴァン  
10周年記念コンサート

●小ホール ●19:00開演  
●一般:2,000円  
●大学生以下:1,500円  
※トリオ・レ・ヴァン  
✉trio.les.vents.since2015@gmail.com

29 ふくい Wind Brass  
第8回 定期演奏会

●大ホール ●14:00開演  
●無料(要整理券)  
※ふくい Wind Brass 小玉  
☎090-2031-9554

ふちゝびあのコンサート  
～連弾を楽しもう～

●小ホール ●14:45開演  
●全席自由:1,000円  
※福井ウクレレクラスタ奏  
✉fukui@ukulele.jp

24 ～Curtis音楽院で学ぶ2人 夢の共演～  
Himari&Karlis DUOコンサート

●大ホール ●14:00開演  
●全席指定:車いす席:5,000円  
●バックシート:4,500円  
※全席発売  
※エンタメスタイル  
☎076-256-5538(平日11:00～17:00)

25 Osaka Shion Wind Orchestra  
福井特別演奏会

●大ホール ●16:00開演  
●全席指定 一般:4,500円 学生:3,500円  
※Shion チケットセンター  
☎0800-919-5508(平日10:00～17:30)

アルル リトルコンサート 2025

●小ホール ●12:45開演  
●無料(関係者のみ)  
※アルルの会 橋本 ☎090-9444-5950

30 ぴあ\*ぴあ\*の 発表会

●小ホール ●19:00開演  
●無料(関係者のみ)  
※大森かおりピアノ教室  
☎0778-62-2580

31 第2回 能登半島復興支援  
吹奏楽チャリティコンサート in ふくい

●大ホール ●13:30開演  
●全席自由:1,000円  
※チャリティコンサート実行委員会 上高  
☎090-7742-6321

福井室内管弦楽団 第38回 演奏会

●小ホール ●14:00開演 ●無料  
※福井室内管弦楽団 清水  
☎090-1634-8793

6月

1 大和証券グループ presents  
辻井伸行 日本ツアー-2025

●大ホール ●14:00開演  
●S席:車いす席:8,000円  
●A席:7,000円 B席:6,000円  
※ハーモニーホールふくいチケットセンター  
☎0776-38-8282

8 連弾の妙技 ～The ORGAN～  
オルガン:長田真実&大平健介

●大ホール ●14:00開演  
●全席指定:車いす席:2,000円  
(4歳~高校生:半額)  
※ハーモニーホールふくいチケットセンター  
☎0776-38-8282

福井県三曲会 第46回「邦楽の会」

●小ホール ●14:00開演  
●無料(要入場券)  
※福井県三曲会 事務局 ☎0776-52-0072

14 北欧の夏至祭  
～ヴェスタノーが奏でる  
スウェーデン伝統音楽の世界～

●大ホール ●15:00開演  
●全席指定:車いす席:2,000円  
(小~大学生:500円)  
※ハーモニーホールふくいチケットセンター  
☎0776-38-8282

第5回 福井ウクレレオーケストラコンサート

●小ホール ●13:30開演  
●全席自由:1,000円  
※福井ウクレレクラスタ奏  
✉fukui@ukulele.jp

ハーモニーホールふくい  
コンサート情報

CONCERT INFORMATION

[2025.4.5.6]

27 山内悦子先生門下生による  
古希お祝コンサート

●小ホール ●13:00開演  
●全席自由:1,000円  
※佐藤 ☎090-2128-9774

29 フリュゲル  
ピアノコンサート 2025

●小ホール ●14:30開演  
●全席自由:1,000円(シングル)  
※開演楽器 福井 教室事務局  
☎0776-52-3060

5月

2 ガルガンチュア音楽祭 in ふくい  
貫川 風 ピアノ・リサイタル

●小ホール ●19:00開演  
●全席指定:車いす席:2,000円  
※ハーモニーホールふくいチケットセンター  
☎0776-38-8282

3 福井地区吹奏楽祭

●大ホール ●10:00開演  
●無料(関係者のみ)  
※福井市成和中学校 澤田  
☎0776-22-8835

5 ふれあい歌謡発表会

●小ホール ●11:30開演  
●無料  
※ふれあい歌謡交流会 印牧  
☎090-8268-3244

6 増永美栄子歌謡教室 発表会

●小ホール ●9:30開演  
●無料  
※ふれあい歌謡交流会 印牧  
☎090-8268-3244

10 めいおんFukui 第16回 演奏会

●小ホール ●19:00開演  
●一般:1,000円  
●学生(高校生まで):500円  
※めいおん Fukui 吉田  
☎090-4683-7255

11 ピティナ・ピアノステップ 福井地区

●小ホール ●10:00開始  
●無料  
※ピティナ・フェニックス福井ステーション 徳岡  
☎0776-24-1773

18 福井交響楽団  
第38回 定期演奏会

●大ホール ●14:00開演  
●一般:1,000円 大学生以下:500円  
※福井交響楽団 事務局  
✉fukui.fso@gmail.com

福井センター合唱団 60周年記念  
第35回定期演奏会

●小ホール ●13:30開演  
●一般:1,500円  
●学生および障がいのある方:1,000円  
※福井センター合唱団 清水  
☎090-2030-0845

4月

5 Great Masters Series vol.5  
～ヴィオラの世界、  
今井信子とともに～

●小ホール ●14:00開演  
●全席自由 一般:4,000円  
●学生(大学生以下):2,000円  
※Great Masters Series 実行委員会  
✉gms@greenlab.jp

6 羽水高等学校  
吹奏楽部・合唱部・邦楽部  
第35回 定期演奏会

●大ホール ●13:30開演  
●全席自由:300円(大学生以下無料)  
※福井県立羽水高等学校  
☎0776-36-1678

Brass Band ROAR !  
13th Concert

●小ホール ●13:30開演  
●全席自由:500円(未就学児無料)  
※Brass Band ROAR ! 橋本  
☎090-6277-3794

12 福井新聞・女性の集い「さくら」  
2025年度 第1回サロン  
N響メンバーによるゲートウェイ・リズ  
～Cocomi&サキハチメを遊ばせ～

●大ホール ●13:30開演(会員限定)  
●(夜の部 17:30開演)同伴者鑑賞可 5,000円  
※福井新聞社 さくら事務局  
(営業事務局 内)  
☎0776-57-5180

19 はやしべとし  
三十歳の旅立ち  
～叙情歌を道づれに～  
福井編

●小ホール ●15:00開演  
●全席指定:7,000円  
※未就学児入場不可  
※エンタメスタイル  
☎076-256-5538(平日11:00～17:00)

20 混声合唱団  
福井コールアカデミー  
第35回 定期演奏会

●小ホール ●14:00開演  
●全席自由:1,000円  
※混声合唱団 福井コールアカデミー 赤尾  
☎080-1011-5640

22 第34回 ハーモニー・プンカさろん  
～オランダ黄金時代の絵画  
―光・音楽・フェルメール～

●小ホール ●13:30開演  
●全席自由:2,500円  
※ハーモニーホールふくいチケットセンター  
☎0776-38-8282

26 ピアノ発表会

●小ホール ●12:45開演  
●無料(関係者のみ)  
※佐々木 ☎090-8093-4020

※□部は、当ホールの自主公演でP.5～P.10、P.18に見どころなどが紹介されています。(5/2、6/25は、小学生から大学生まで半額)  
※掲載内容は都合により変更される場合がありますので、予めご了承ください。(3/5時点の情報です) ※チケットに関するお問い合わせは、各主催者までお願いします。